



第77回 卒業式 式辞

校長 島田 貴弘

例年になく大雪に見舞われた今年の冬でしたが、ようやく気温の上昇とともに雪解けが進み、待ちわびた春の訪れを実感できる季節となりました。

この佳き日に、札幌市立幌東中学校「第七十七回 卒業証書授与式」を挙行できますことは、本校にとってこの上ない喜びでございます。ご多忙の折、PTA会長 吉村綾子様をはじめ、ご来賓の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を手にした一七一名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。皆さんに手渡したこの証書は、中学校における全課程を修了した証であり、これまでの三年間、皆さんが積み重ねてきた努力が結実した、極めて重みのある大切なものです。どうぞ、その重みをしっかりと掌（てのひら）で感じてください。

振り返れば、皆さんと歩んだこの一年間、皆さんは最高学年として、まさに「学校の顔」となり、この幌東中学校を力強く牽引してくれました。三年生のスタートと共に、春に出かけた修学旅行。慣れない土地での班別自主研修や、仲間と寝食を共にした時間は、私にとっても忘れられない大切な思い出です。目的地で見た皆さんの弾けるような笑顔、そして、互いを思いやり、公共のマナーを守りながら行動する姿に、最高学年としての確かな自覚と成長を感じ、胸が熱くなりました。また、学校祭では、文字通り学校の中心となり、全校を一つにまとめ上げ、大いに盛り上げてくれました。仲間と意見をぶつけ合い、一つのことを創り上げる苦勞。そして、本番のステージで見た、あの圧倒的なエネルギー。皆さんの情熱は、後輩たちの目にも、眩しく、憧れの姿として焼き付いたはずですよ。

今日、皆さんは新しい道へと歩みを進めます。未来には、時に高い壁が待ち受けているかもしれませんが、そんな時、覚えておいてほしいことがあります。それは、「一人で抱え込まない」ということです。自分の道を力強く突き進むことは素晴らしいことです。しかし、本当の強さとは、自分の弱さを認め、必要な時に「助けてほしい」と周りに手を伸ばせる勇気のことでもあります。皆さんの周りには、共に笑い、支え合える仲間がいます。導いてくれる大人がいます。周囲の助けを力に変えながら、一歩ずつ、自分らしい道を切り拓いていってください。

そして、最後にもう一つ。皆さんに大切にしてほしいことがあります。それは「感謝の心」です。今日、皆さんがこの場に立っているのは、自分自身の努力はもちろんですが、それだけではありません。皆さんの成長を一番に願い、時に厳しく、時に優しく支えてくださったご家族。共に歩んだ友人。そして、温かく見守ってくださった地域の方々。多くの支えがあって「今」があることに思いを馳せ、その感謝を言葉や行動に変えて伝えていける、心豊かな人であってほしいと願っています。

結びに、卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを、さらに本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜りました皆様のご多幸とご健勝を心より祈念申し上げ、式辞といたします。

感謝と誓いのことば

長く厳しかった冬も終わりを告げ、春の訪れを感じる季節となりました。本日は、私たち卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を挙行していただきありがとうございます。また、先生方をはじめ、保護者の皆様、地域の方々にもご臨席を賜り、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

今、私たちの中学校の生活が終わりを迎えようとしています。思い起こせば、三年前の四月は新型コロナウイルスが五類になる前で、まだ日々の生活にたくさんの制限がありました。初めて出会う友達との新しい生活は、マスクの着用、黙食など、思い描いていたものとはかけ離れていましたが、途中から制限がなくなり、部活動や生徒会活動も、目一杯、全力で取り組むことのできた充実した三年間でした。一年生では、札幌市内に校外学習へ出向き、歴史や文化を学びました。二年生では、小樽と富良野に一泊二日の宿泊研修に行き、仲間との初めての宿泊を楽しみました。二日目の富良野演劇工房では、「伝えること」「伝わること」の大切さを学びました。三年生では、秋田・盛岡へ二泊三日の修学旅行へ行きました。一日目の踊り体験では、仲間と協力して意見を出し合い、グラスごとの個性があらわれたパフォーマンスをすることができました。学校祭では、「俺らのアオハル〜イッシュウの宝物〜」をテーマに、三年間の青春を詰め込んだ学校祭を創り上げました。各部門、協力して一つのものを作り上げることができ、大成功と胸を張って見える学校祭になりました。

こんなにたくさんの思い出を胸に、今日私たちが幌東中学校を巣立つことができるのは、いつも私たちを励まし、支え、導いてくださった周りの方々のお力添えのおかげです。いつも私たちに優しく、時には厳しく指導してくださった先生方、普段の何気ない会話でも、いつも気にかけていただいていることが嬉しかったです。そして、部活動の大会の前には励ましてくださったり、頑張っていると褒めていただいたことで、いつも色々なことに自信をもって取り組みました。進路指導でも、最後まで一緒に励ましていただき、諦めずに挑戦することができました。

坂上先生、一年生で種をまき、二年生で育てた花は、今日、満開に咲いていますか。私たちは、先生方が大切に育ててくださったこの花を枯らせることなく、咲かせ続けます。今後も、苦しい時には、先生方から指導していただいたこと、かけていただいた言葉を思い出しながら、頑張っていこうと思います。

そして、十五年間、私たちに惜しみない愛情を注いでくださった保護者の皆様。時には衝突することもあります。いつも私たちの一番の味方でいてくれて、本当にありがとう。何事にも「自分のやりたいことをやりなさい」と背中を押してくれたおかげで、部活動、生徒会、そして、受験を悔いなく終えることができました。まだまだ未熟な私たちですが、また新たな場所で、新しい目標に向かって進んでいく次のステージでも、応援とご協力をお願いします。

いつも私たちの活動を支え、共に成長してくれた在校生の皆さん、日々の生徒会活動や部活動では、いつも協力し、大変なことも、楽しいことも一緒に乗り越えてくれました。これから多くの壁にぶつかり、不安になることもあると思いますが、失敗を恐れず、挑戦を楽しんでください。きっと、皆さんを心から応援してくれる人がいるはずですよ。

卒業生の皆さん、中学校三年間という、かけがえのない時間を幌東中学校で一緒に過ごすことができたことを、心から嬉しく思います。受験勉強でなかなか成績が上がりつらかったときも、真夏の暑い中での部活動も、いつも切磋琢磨できる仲間がいたから、乗り越えることができました。どんなに苦しかった経験も、今となってはとても楽しく、一生の宝物です。この先、またそれぞれ違った場所に進みますが、新たなステージでもお互いの夢に向かって努力していきましょう。またいつか、会える日を楽しみにしています。

最後になりますが、大好きな先生方、温かく見守ってくださった地域の皆様、どんな時でも私たちの味方でいてくれる保護者の皆様、そして、頼もしい後輩たち、私たちに関わってくださった全ての方々へ感謝して、お別れの言葉といたします。

三年間、本当にありがとうございました。

令和八年 三月十三日

卒業生代表 金指 桃佳